

電気設備の浸水対策により、鉄道の安全・安定輸送を守る

【対策】59 地下鉄、地下駅、電源設備等の浸水対策

対策概要：止水板、防水扉等の設置により、地下駅等出入口等の浸水被害を防止する。電源設備等の移設や止水板、防水扉等の設置により、電源設備等の浸水被害を防止する。

府省庁名：国土交通省

【事例】鉄道施設総合安全対策事業（浸水対策）

- 実施主体：近畿日本鉄道株式会社
- 実施場所：愛知県名古屋市
- 事業概要：信号継電器室は近鉄名古屋線の鉄道運行を支える重要な設備であるが、地方公共団体等が指定した浸水想定区域に位置しており、河川氾濫による浸水被害が生じた場合、鉄道運行の支障が長期間にわたり生じる可能性があったため、防水扉の設置、防水塗装、1階の窓の封鎖等の浸水対策を実施。
- 事業費：1,700万円
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)1,700万円)
- 効果：当該場所は、計画規模降雨(10～200年に1回程度の割合で発生する降雨量)において浸水する恐れがあったが、防水扉設置等の対策を行ったことでこの浸水からの被害を受けず、鉄道運行への支障を最低限に抑制することが見込まれる。

対策前



対策後



防水扉設置、外壁防水塗装

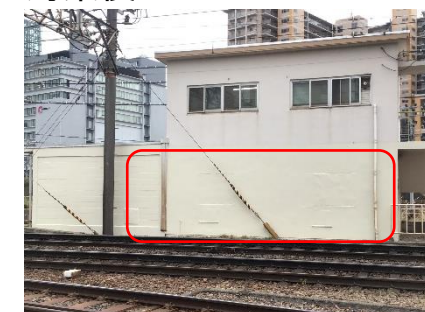
防水扉

対策前



浸水想定水位
(約1.1m)

対策後



窓・ガラリ封鎖、外壁防水塗装